

1. はじめに

若手育成セミナー「JESUS」は、消化器外科医の育成と入会者の増加を目的として 2015 年に開始されたセミナーであり、例年、全国から約 90 名の初期臨床研修医が参加している。本セミナーの特色は以下の 3 点である。

① 外科基本手技がじっくり学べるプログラム

糸結びの基本(テンションメーターを用いて結び目の強度測定・結び方による強度の違いの体験)、ドライボックスを用いたトレーニング、腸管吻合、手術器械を用いた吻合法など、外科基本手技を経験豊富な指導医から丁寧に学ぶことができる。

② 将来の進路について深く語り合えるセミナー

U-40 メンバーを含む若手・中堅の消化器外科医による講師陣に加え、同じ志を持つ同世代の参加者と将来の進路やキャリアについて率直に語りあうことができる。

③ 日本を代表する教育熱心な講師陣による直接指導

全国から教育熱心なエキスパート講師陣が集まり、対面形式で直接指導を受けられることも本セミナーの大きな特徴である。

2. 開催当日概況報告

2026 年 7 月 17 日金曜日、パシフィコ横浜アネックスホール 2F において、「JESUS 2026」を開催した。選出された参加者 77 名のうち、5 名が欠席し、72 名が現地に参加した。開会にあたり、齋浦理事長より本セミナーの意義と参加者への期待について挨拶が行われた。続いて委員長 田中千恵先生による開会宣言があり、「JESUS 2026」が開会した（図 1）。

① Under 40 委員会コラボ企画

Under 40 委員会とのコラボ企画として、キャリアセミナーを開催した。冒頭に Under 40 委員会の活動紹介を行った後、事前に参加者から寄せられた質問に対して委員会メンバーが回答した。質問内容は、消化器外科医を志した理由、消化器外科医の一日、家庭・子育てと仕事の両立など多岐にわたり、各メンバーが自身の経験を交えながら回答した。

② ハンズオンセミナー

糸結び、腸管吻合、トレーニングボックス、手術器械体験の各ハンズオンセミナーを実施した。

糸結びは基本的手技を確認した後、テンションメーターを用いて結び目の強度を測定し、結び方による強度の違いを体験した（図 2）。腸管吻合では、ブタの腸管を用いて Albert-Lembert 吻合を行い、最後に水を注入してリークテストを行った（図 3）。トレーニングボックスでは、ドライボックスを用いて体内結紮などの腹腔鏡下手術手技を経験した（図 4）。さらに、手術器械体験では、実際の手術で使用されるものの、初期臨床研修医が直接手に取る機会の少ない器械を用いて、その取り扱い方を学んだ（図 5）。

いずれのプログラムにおいても参加者は熱心に取り組み、インストラクターによる丁寧で熱意ある指導が行われた。

③ 若手消化器外科医との対談

若手消化器外科医との対談では、消化器外科医を志した理由、進路やキャリア、学位取得の必要性など、多岐にわたるテーマについて、活発な意見交換が行われた（図 6）。参加者は終始積極的に議論へ参加し、インストラクターもそれに応える形で熱意をもって助言や経験談を共有していた。

④ 親睦会

親睦会では、理事長、インストラクター、研修医が一堂に会し、活発な交流が行われた。和やかな雰囲気の中で参加者同士、また参加者とインストラクターとの距離が縮まり、専門的な意見交換や将来の進路相談など、さまざまな交流がみられた。参加者からは「貴重な機会だった」との声も多く聞かれ、本セミナーの教育的価値をさらに高める機会となった。

3. JESUS 2026 アンケート結果

JESUS 2026 終了後にアンケートを実施し、62 名から回答を得た。

「JESUS に参加したことで消化器外科を専攻する気持ちになりましたか？」という設問では、「大いになった」が 87%、「少しなった」が 13%であった。「JESUS があなたの今後に役立つか？」との問いには、92%の参加者が「大いに役立つ」と回答した。また、「後輩・友人に JESUS への参加を勧めますか？」という設問では、全回答者が「勧める」または「とりあえず勧める」と回答した。

一方、実技プログラムの時間については、「ちょうどよい」が 76%であったものの、「もう少し長い方がよい」と回答した参加者も 23%みられた。プログラム別では、腸管吻合で 52%、トレーニングボックスで 44%が「時間が足りなかった」と回答した。前回のアンケート結果を踏まえ、本年度は実技時間の延長およびインストラクター数の増員を行ったが、依然として時間不足を感じる参加者が一定数認められたことから、今後もプログラム内容や運営方法について継続的な検討が必要と考えられた（図 7）。

4. 今回の改善点と次回開催に向けた検討事項

前回のアンケート結果および運営上の課題を踏まえ、本年度は以下の改善を実施した。

① キャリアセミナーの充実

キャリアセミナーでは、女性消化器外科医の講師を増員し、多様なキャリアパスや家庭・子育てと仕事の両立などについて、幅広い視点から意見交換が行えるよう企画内容を充実させた。

② ハンズオンセミナーおよび運営体制の改善

前回のアンケート結果を踏まえ、実技時間を延長するとともにインストラクター数を増員し、より充実した指導体制を整えた。また、インストラクターの紹介および感謝状の授与を行う時間を設け、参加者とインストラクターが顔を合わせる機会を創出するとともに、円滑なセミナー運営につなげた。

③ 参加者募集方法の見直し

例年、評議員宛に5月中にメールマガジンを通じて計3回の参加募集を行っている。今年度は、募集メールの内容を見直し、セミナーの特色や参加によって得られる内容をより具体的に記載することで、告知効果の向上を図った。

以上の改善を実施した結果、参加者からは概ね高い評価を得ることができた。一方で、アンケートでは、腸管吻合では52%、トレーニングボックスでは44%の参加者が「時間が足りなかった」と回答しており、参加者の高い学習意欲に十分応えられるよう、実技プログラムのさらなる充実について引き続き検討する必要があると考えられた。

また、募集メールの内容を改善したものの、参加者数の増加には十分には結びつかなかった。今後は、募集対象施設や対象者の拡大を含め、より効果的な広報・募集方法について検討していく予定である。

5. おわりに（図8）

本年のJESUS 2026は、第81回日本消化器外科学会総会（会長：比企直樹先生）とのジョイントで開催し、第11回を迎えた。これまで好評を博してきたプログラムを継続し、Under 40委員会とのコラボレーション企画として、事前に寄せられた質問への回答やライフプランの紹介を含むキャリアセミナーを実施した。

また、過去の運営経験を活かし、実技時間の延長やインストラクターの増員、運営方法の見直しなどを行った結果、セミナー全体を通して円滑な運営を行うことができた。参加者、インストラクター、運営スタッフの協力のもと、大きな混乱なく充実したセミナーを実施することができた。

本セミナーを通じて、全国から参加した初期臨床研修医が消化器外科の魅力や手術手技を体験し、今後の進路を考える契機となることを期待するとともに、一人でも多くの参加者が将来の消化器外科医として活躍されることを願っている。

最後に、JESUS 2026の成功は、総会期間中にも関わらずご尽力いただいた齋浦理事長をはじめ、第81回日本消化器外科学会総会会長・比企直樹先生、ご来場いただいた役員の先生方、準備・運営にご尽力いただいた日本消化器外科学会事務局ならびに第81回総会事務局の皆様、インストラクターをお務めいただいた先生方、ならびにNext Generation Recruit委員会およびUnder 40委員会の先生方、さらに共催いただいたジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社の皆様をはじめ、多くの関係者のご支援と

ご協力に深く感謝申し上げます。

■ Next Generation Recruit 委員会

田中 千恵	名古屋大学医学部附属病院 消化器・腫瘍外科
植村 守	大阪大学 消化器外科
岡田 拓久	群馬大学大学院 総合外科学講座 消化管外科学分野
亀田 千津	福岡赤十字病院 消化管外科
小嶋 忠浩	静岡県立静岡がんセンター
塩崎 敦	京都府立医科大学大学院医学研究科 消化器外科学
高橋 敦	順天堂大学医学部附属順天堂医院
野田 恵佑	長崎大学外科学講座
松橋 延壽	岐阜大学 消化器外科・小児外科
松本 逸平	近畿大学外科肝胆膵部門
丸山 傑	山梨大学 消化器外科
吉川 幸造	高松市立みんなの病院
李 相雄	大阪医科薬科大学 一般・消化器外科

■ Under 40 委員会

小佐々 貴博	山口大学大学院医学系研究科 消化器・腫瘍外科学
寺井 太一	奈良県立医科大学

■ インストラクター

麻生 健太	順天堂医院
大井 正貴	三重大学附属病院消化管外科
小田切 数基	済生会千里病院外科
木内 純	京都府立医科大学大学院医学研究科消化器外科学
古賀 睦人	近畿大学医学部奈良病院外科
清水 浩紀	京都府立医科大学大学院医学研究科消化器外科学
清水 祐太朗	群馬大学大学院総合外科学講座消化管外科学
田井 謙太郎	近畿大学外科肝胆膵部門
富岡 淳	大阪医科薬科大学一般・消化器外科
中森 万緒	愛知県厚生農業協同組合連合会（JA 愛知厚生連）江南厚生病院外科
根尾 学	岐阜大学医学部附属病院消化器外科
藤澤 将大	越谷市立病院
古川 健太	大阪急性期・総合医療センター外科

松尾 謙太郎	大阪医科薬科大学一般・消化器外科
松本 圭太	岐阜大学消化器外科・小児外科
三代 雅明	大阪大学消化器外科
南野 祥子	江南厚生病院外科
虫明 修	大阪医科薬科大学一般・消化器外科

図 1



齋浦理事長と田中委員長よりご挨拶

図 2

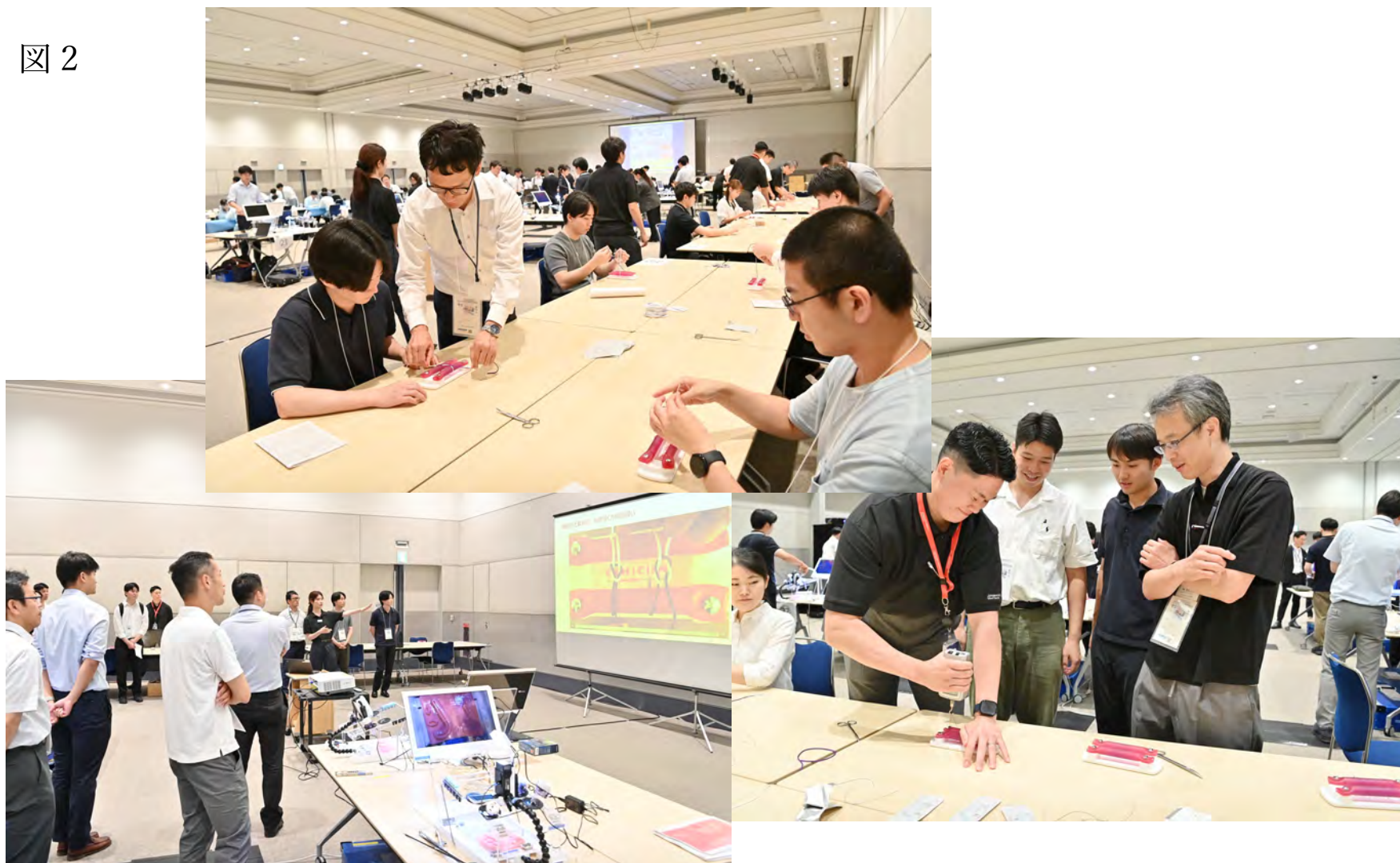


図 3



図 4



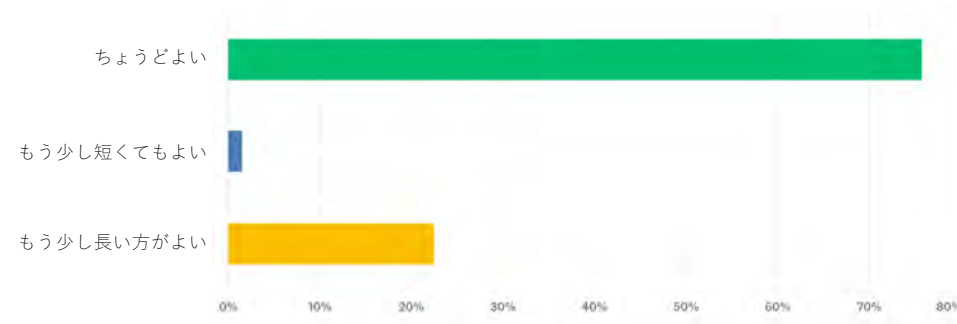
図 5



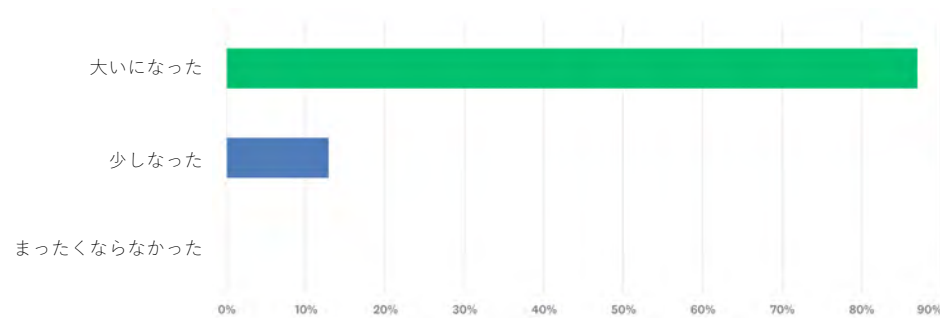
図 6



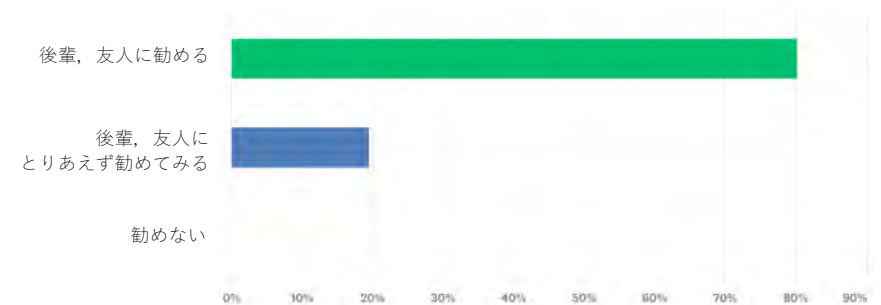
図 7



実技の時間について



JESUSに参加し消化器外科を専攻される
気持ちになりましたか



次回JESUSが開催されたら
後輩、友人に勧めるか

図 8

